

**麻しんと診断したら、速やかに発生届出とともに検体採取をお願いします。**  
**(臨床診断例(疑い症例含む)も、IgM 抗体陽性例も)**

IgM 抗体は、発症初期には陰性の場合があります。

IgM 抗体は、まれにサイトメガロウイルス、EBウイルス、パルボウイルスB19等の感染により交差検出されることがあります。

修飾麻しんは、臨床症状もIgM抗体価も、麻しん典型例とは異なります。

#### 採取検体：血液、咽頭又は鼻腔ぬぐい液、尿

血液：EDTA入り採血管に2～5ml（クエン酸入り、ヘパリン入りは不可）

咽頭又は鼻腔ぬぐい液：手持ちの綿棒で採取し、密封できる滅菌スピッツに保存

尿：密封できる滅菌スピッツに10～20ml

（参考）PCRによる麻しん遺伝子の検出率は、血液＞咽頭又は鼻腔ぬぐい液＞尿の順といわれています。

※管轄保健所に連絡いただければ、検体を受け取りに伺います。

※それまでの間は、検体は冷蔵保存をお願いします。

#### 検査診断フローチャート

検査は全て、千葉県衛生研究所で実施します。（無料）

検査結果は、搬送日数を含め、おおよそ1週間後に報告します。

